

能登豪雨

# 倉敷市社協と AMD A派遣

石川県能登半島を襲った記録的豪雨を受け、倉敷市社会福祉協議会と国際医療ボランティアAMD A（本部・岡山市）は27日、被害に見舞われた同県輪島市にそれぞれ支援スタッフを派遣した。（27面関連）

倉敷市社協は職員5人が輪島市社協と協力し、10月5日までの予定でボランティアセンターの運営に当たる。西日本豪雨の際に支援物資の提供を受けた縁で、1月の能登半島地震後に輪島市社協に職員を派遣していた。

倉敷市内であった出発式で、伊東香織市長は市が被

輪島市社協に派遣される倉敷市社協の佐賀事務局次長（手前）ら5人



災した西日本豪雨などを踏まえ「経験を支援に生かして」と呼びかけた。職員を代表し佐賀雅宏事務局次長は「被災者の気持ちに寄り添ったサポートに努める」と述べた。

AMD Aは鍼灸師<sup>しんきゅうし</sup>2人を派遣した。被災者支援に当たるボランティアや自治体職員をケアし、復旧作業を後方からサポートする。

2人はAMD A被災地支援ネットワークに登録する朝日医療大学校（岡山市）教員の山口大輔さん（52）と

飲料水などを積み込み、出発準備をする鍼灸師の山口さん（左）と林さん



西明堂林鍼灸院（倉敷市）院長の林篤志さん（34）。10月1日までをめどにはり治療を行う。要望があれば延長も検討する。

山口さんは「不眠不休で頑張る自治体職員らに休息と癒やしを提供できれば」、林さんは「地震と豪雨災害の二重被害に苦しむ被災地の力になりたい」と話した。

（後藤泉稀、西平亮）